

主任教授からのメッセージ

患者さんの生活に寄り添った細やかな治療を提供できる女性医師は、リハビリテーション医療の幅広い分野で活躍しており、リハビリテーション医療の質を高める役割を果たしています。日本リハビリテーション医学会としても、「リハビリテーション科女性医師ネットワーク」を立ち上げて、女性医師の活動を支援する取り組みを行っています。認定内科医や外科専門医、整形外科専門医、小児科専門医等を取得している場合には、2年間のリハビリテーション科研修によって専門医受験資格を得ることが可能であり、ライフスタイルに応じた研修プログラムを組ませていただいています。2018年に開講した新しい講座ですが、一人ひとりのキャリアデザインを展開するための環境を提供できる診療科です。

○ 診療科の特徴

患者さんの活動を育むことを使命とし、ADL向上、社会復帰、等を目指します。病気の診断のみならず、障害に対しても積極的にアプローチする診療科です。医療保険・介護保険、双方で治療を行う唯一の診療科である事もあり、急性期・回復期・生活期と様々なステージでの活躍が期待されます。昨今の超高齢社会におけるリハビリテーションの社会的ニーズが高い事は言うまでもありませんが、今後は再生医療などの分野の発展に伴い、従来は治療困難であった疾病においても、機能回復の臨床的意義はますます高まると予想されます。

○ 診療科で働く女性医師

大学病院 2名

回復期病棟 2名

海外 1名

▶ 職場復帰への取り組みについて**○ 復帰までの道のり**

先述の通り、リハビリテーション科医として臨床に携わる環境は様々である事から、その選択によって復帰までの道のりも三者三様です。当科の上級医には女性医師も多く、専攻医それぞれの希望を傾聴し、理解して下さるので、各自にとって適合し、かつ持続可能な計画が可能です。2009年6月に「リハビリテーション科女性医師ネットワーク」もスタートし、女性医師支援を受ける事も可能です。このように復帰に向けたサポート体制は充実しています。

○ 研修内容

復帰後、外来および病棟診察は1か月程度、ブロック療法や筋電図検査など専門性の高い手技は数ヶ月程度指導下で開始としますが、期間の短縮・延長のいずれも柔軟に対応します。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

女性医師のライフスタイルは様々ですが、診療科全体で柔軟に対応できるよう尽力します。また、当科には医師だけでなく療法士も女性スタッフが多く在籍しておりますので、色んな人の声を聞くことができる環境があります。ご興味のある先生は気軽に扉を叩いてみてください。

復帰した医師の声

体験談（A先生）

私はリハビリテーション科入局2年目で第1子を出産し、育児休暇取得後半年で復帰しました。慣れない育児と仕事の両立にはじめは不安でいっぱいでしたが、教授をはじめ、周りの先生方が臨機応変に対応して下さい、また丁寧な指導があったため安心して復職できました。入局5年目で第2子を出産しましたが、妊娠中にリハビリテーション科専門医試験がありました。限られた時間の中で試験勉強の時間を捻出するのは簡単ではなかったですが、職場の周りの方々がサポートして下さいのおかげで無事に取得することができました。育児休暇を約1年間取得した後にフルタイムで復帰しました。

当科では育児はもちろんのこと、各々のライフスタイルに沿った希望を尊重していただけるのでとても働きやすく感謝しています。育児と仕事はやはり忙しく大変な面もありますが、育児中のスタッフが多く何でも相談できる環境があるのですごく助かっています。

● 講座ホームページ 関西医科大学 リハビリテーション医学講座 <https://www7.kmu.ac.jp/rehab/>